

《実践報告》

## 2021 年度 オンライン学生国際交流の取り組み

——授業「地域・国際交流 B」と授業「国際理解リテラシー」のコラボから——

渡邊 洋子（新潟大学）・立川 みなみ（新潟大学学生）・長谷川 太一（新潟大学学生）  
島田 凜々子（新潟大学学生）・堀川 優有里（新潟大学学生）

### はじめに

本稿は、コロナ禍により海外渡航自体が叶わない状況下、2021 年度に創生学部選択科目「地域・国際交流 B」の受講学生がオンラインで中国の学生と交流し、同学部 1 年生 60 人余りを対象に国際交流ワークショップ（「日中交流会」）を企画運営したプロセスを、学生自身が振り返るものである。このワークショップは 2022 年 1 月 13 日、必修科目「国際理解リテラシー」（担当：佐藤靖教授・小山翔子助教、渡邊）の 1 コマ（渡邊担当回）を使って実施された。

以下、1 で「地域・国際交流 B」のねらいとこれまでの経緯、「国際理解リテラシー」との関わりにおける本活動の位置づけに言及する。2 で「日中交流会」当日に至る運営学生の準備プロセスについて報告する。さらに 3 では、「交流会」当日の概要をスライドで示し、運営学生が「交流会」後に実施したアンケート調査の選択回答内容から、参加した 1 年生がどんな反応を示したかを概観した後、運営学生自身の振り返りを掲載する。さらに参加学生の具体的な反応を示す「資料」として、同調査における記述回答内容を掲載する。

### 1 授業「地域・国際交流 B」について

授業「地域・国際交流 B」は、創生学部の開設 3 年目に開講された選択科目で、卒業単位のフレームワークでは「自由科目」と位置づけられる。担当教員は、佐藤靖教授と渡邊の二人である。本科目は、創生学部の 1 年次の必修科目（フィールド・スタディーズ等）で培った幅広い視野や、2 年次の選択必修授業（英語

集中プログラム P.A.C.E.）で身につけた語学力等を活かしながら、「学生がオンラインで国際交流を行うことを通じて、グローバルな視野から自ら考え行動する能力を身につけること」を目指している。

授業形態②（渡邊担当）では、「海外の大学等と交流する機会（オンラインでの交流を含む）を学生自身がコーディネートし、実施した内容について事後に振り返りを行うことで、当事者意識をもった形で世界との結びつきを強める」ことを目指し、2019 年度は北京師範大学珠海校を実地訪問して交流活動を行った。ここでは、同大教員・学生との事前協議も含め、学生が主体となり、交流プログラムを企画・運営し、終了後は報告書を作成・刊行している<sup>1</sup>。

2020 年度は現地交流が全く不可能となったため、「地域・国際交流 B」の授業は中止とせざるを得なかった。2021 年度も同様の状況が続くことが予測されたが、国際交流の新たな可能性を追求する必要があると考え、オンラインでの交流活動を主体とするものに変更して行うことにした。とはいえ、授業担当者としては、外国人学生との単なる「交流のための交流」に留まるのではなく、何らかの共通目的をもつ協働を行う方が、国際交流の体験的理解には効果的であると考えた。そこで、2019 年度の訪中でもお世話になった同大 学 珠 海 校 の 胡 学 亮 教 授 に ご 相 談 し、受 講 学 生 が 中 国 人 学 生 と 共 同 で オ ン ラ イ ン の 国 際 交 流 ワ ー ク シ ョ ッ プ を 企 画 ・ 運 営 す る と い う 趣 旨 の 交 流 活 動 を 構 想 し た。な お、同 ワ ー ク シ ョ ッ プ は、同 じ く 渡 邊 が 今 年 度 か ら 担 当 す る こ と に な っ た 1 年 生 の 必 修 科 目 「国 際 理 解 リ テ ラ シ ー」の 1 コマ（2022 年 1 月 13 日 第 3 限）を使い、

<sup>1</sup> 高田敦子・岡本留奈・小根澤茉莉編『2019 年度新潟大学創生学部地方中団報告書』、同報告書編集事務局（渡邊洋子）、2020 年 2 月。合わせて、渡邊洋子「2019 年度 新潟大学創生学部 学生国際交流の取り組み：授業「地域・国際交流 B」の到達点と課題」『創生ジャーナル Human and

Society』、第 3 巻、33 - 55 頁、2020 年 3 月を参照。

中国とオンラインで結ぶ形で行うこととした。すなわち、本稿で振り返る国際交流活動は、「地域・国際交流B」と「国際交流リテラシー」という2つの授業のコラボレーションの中に展開されたものと位置づけられる(以上、渡邊)。

## 2 「日中交流会」への準備プロセス

この交流活動を主体として担ったのは、以下の4人の学生である。

### 【運営学生（「地域・国際交流B」受講学生）】

4年 立川 みなみ

3年 島田 凜々子

長谷川 太一

2年 堀川 優有里

以下、2021年4月30日に実施した「地域・国際交流B」のための顔合わせ以降、2022年1月13日のワークショップ当日に向けた準備プロセスを、運営学生たちがどのように進めてきたかを、「スケジュール」(一覧表)として示すことを通して、活動の概要を取りまとめる。なお、1月13日のワークショップ企画(新潟大学1年生と中国人学生が交流する会)を「交流会」、企画した日本人学生(あるいは日本人学生と教員)が参加したミーティングを「MTG」、中国人学生を含むミーティングを「交流MTG」と呼び分けるものとする。

### (1) スケジュール

#### 【「日中交流会」に至るプロセス】

日付	議論の概要	確定事項	課題や疑問
①4月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に参加した理由や今後やりたいこと</li> <li>・今後の進め方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会当日までの大まかな見通し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることとやりたいことを共有する</li> <li>・交流会の目的やゴールを考える</li> </ul>
②5月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOMの使い方</li> <li>・第1回交流MTGの目的と内容、位置づけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回交流MTGではインフォーマルに、和気藹々と</li> <li>・簡単な中国語を交えて自己紹介をする</li> <li>・会話は中国語と英語で話す</li> <li>・内容は大学生生活、出身地、休みの日のこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日の交流MTGの開催方法</li> <li>・パワポに掲載する内容</li> </ul>
③5月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回交流MTGの開催方法</li> <li>・当日の流れ、スケジュールング</li> <li>・スライドの役割分担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雑談時間のときはブレイクアウトルームに分ける</li> <li>・挨拶は各々の中国語のレベルに合わせて、中国語か英語で話すか、「大家好、我是(自分の名前)」だけは中国語</li> <li>・相手に伝わらないときは全て中国語で話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の参加者はZOOMを使用可能か?(規制等の理由で)</li> <li>・学生の人数は?</li> <li>・参加者の名前は?</li> <li>・語学レベルは?</li> </ul>
★5月18日(第1回交流MTG)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの自己紹介(中国の学生の自己紹介もこの時間に収まった)</li> <li>・ブレイクアウトルームに分かれて交流会</li> </ul>		
④5月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回交流MTGの反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的に目標を立てる</li> <li>・オンラインで交流会をする場合それぞれ別室で参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドの活用は必要</li> <li>・事実のみ伝えることより感想を伝え合うことの方が大事</li> <li>・画面共有のタイミングなど、事前</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が交流に参加するために英語での会話を基本とする</li> <li>・交流会ではそれぞれ換全体に向けて挨拶する時間を設ける</li> </ul>	<p>に調整する必要あり</p>
⑤7月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の交流 MTG の回数や目的の共有</li> <li>・事前アンケートの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインキャンパスツアーなどで日中の学生同士の交流に努める</li> <li>・日中の学生にとって Win-Win な関係を築くために中国の学生の意見をしっかりとみ取る</li> <li>・事前アンケートを取り、需要を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案しすぎるとこちらの都合を押しつけることにならないか</li> <li>・中国の学生が交流 MTG に参加するにあたって受講している講義の方針や意図を知りたい</li> </ul>
⑥7月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの質問項目</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの形式はGooglefoamにし、学務係に頼んで学務情報システムで配布する</li> <li>・アンケートはあくまで国際交流に関する意識調査として実施する</li> <li>・夏休み前までに締め切りを設定する</li> </ul>	
⑦8月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の共有</li> <li>・交流会の形式について議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルマを課すなどして、関心のない人にも積極的に参加してもらい、結果的にポジティブな印象を持ってもらうのがゴール</li> <li>・交流会では親しみやすいように互いの学生生活をテーマにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の学生群が第1回とそれ以降で異なるため、最終的な参加人数が把握しづらい</li> <li>・交流MTGではアンケート結果の共有を行うべきでは？</li> </ul>
⑧9月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回交流MTGの流れ</li> <li>・第1回の反省を踏まえた注意点の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の挨拶は全体グループで行う</li> <li>・通訳等アクシデントに備えて時間に余裕を持つ</li> <li>・必要最低限の情報は伝えつつ、その他はアバウトで良い（詳細に伝えようとすると混乱が生じる場合もある）</li> <li>・交流MTGのときは和気藹々と！</li> <li>・当日はレコーディングを行い、後日反省会をする</li> </ul>	
★9月16日（第2回交流MTG）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生、学生の挨拶</li> <li>・ブレイクアウトルームに分かれた交流</li> <li>・感想タイム</li> <li>・交流会の目的に関する提案</li> </ul>		
⑨9月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回交流MTGの反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会と裏方準備の役割を分担するべき</li> <li>・中国語と英語で話すそれぞれの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳を挟むと負担に差が現れるので、役割分担の観点から、次回以降英語メインにするべきでは？</li> </ul>

		<p>言語能力によって理解度に差が出るので英語メインにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流が始まったらラフな会話から始める</li> </ul>	
⑩10月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面MTG</li> <li>・第2回交流MTGの反省②</li> <li>・交流会までの見通しの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を標準語にする</li> <li>・堅苦しくない軽めのテーマを設定する</li> <li>・中国人学生らと親しくなるためにオンラインキャンパスツアーを企画する</li> <li>・名前の表示を英語に変更する</li> </ul>	
⑪10月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国人学生向けの新潟大学オンラインツアーの内容の企画</li> <li>・交流会の内容の提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学だけでなく、その周辺や大学生の一人暮らし、地図を用いた日中の比較を入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流MTGに向けた準備(英語スライド)</li> <li>・第3回MTGの提案内容の作成</li> </ul>
⑫10月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回MTGの流れ</li> <li>・交流会の流れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は無効にプレゼンしてもらうために、今回は見本として作成する</li> <li>・交流会では中国や珠海についても紹介してもらいたい。お願いするのは交流MTG当日だけでなく、後日WeChatを通して再度アナウンスする</li> <li>・交流会では中国人学生からのプレゼンを受けてその後フリートークする流れにする？</li> <li>・事後アンケートをとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は対面で教室に集めるか、或いは完全オンラインで各自パソコンから参加してもらうか？(教室をブレイクアウトルームごとに複数用意するにしても、コロナ禍の影響から広い教室を複数確保する必要があり難しい。また、回線トラブルやハウリング、音声トラブルも想定する必要がある。一方、オンラインだと一人一人が参加している自覚が薄れて積極性が失われる恐れがある)</li> </ul>
★10月28日(第3回交流MTG)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟大学オンラインキャンパスツアー</li> <li>・質疑応答</li> <li>・次回の交流MTGでの中国のオンラインキャンパスツアー企画のお願い</li> </ul>		
⑬11月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回交流MTGの反省</li> <li>・交流会のタイムスケジュール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異国の文化を外国語で伝える際には難しさも出てくるが、既知と未知を線引きした上でシンプル且つ丁寧な説明が求められる</li> <li>・交流会の最後にお互いに感想を述べ合う</li> <li>・フリートークの際に質問が出なかつたら、司会が問いかけをしてラフな雰囲気を作る</li> <li>・交流会当日はトラブルなくコミュニケーションをとることが重視されるので完全オンラインで行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語だけでなく、習慣や常識、環境が異なる相手にどこまで説明したら良いのか、どのように説明したら伝わるのか？</li> <li>・タイムスケジュール管理はしっかりしているとトラブルも起こりにくいですが、形式ばった印象を与えるのでフリートークが弾みにくいのでは？</li> <li>・中国人学生が交流会に参加可能か、ブレイクアウトルームの数に関わるので、人数を性格に把握す</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3限だけでなく4限の時間も一部使って、感想を共有したりアンケートを記入してもらったりする</li> </ul>	る
⑭11月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会のタイムスケジュール</li> <li>・交流会4限で実施する内容の検討</li> <li>・第4回交流MTGの英語スライドの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4限で今までのプロセスを説明し、どのように交流会の準備を進めてきたかイメージしてもらおう(3限は交流会中心, 4限は振り返り中心)</li> <li>・交流会のゴールは「興味を持ってもらう」「行きたい、知りたいにつなげる」「国際交流を身近なものとして感じてもらう」</li> <li>・ゴールに向かっていくためには、自分達がゴールに向かって進んでいくだけでなく、その過程相手の思いを乗せる必要がある。交流するときは、理屈を優先するのではなく、相手の思いや苦勞を受け止めて、プロセスへの関心を持つことが大切</li> </ul>	
★11月25日(第4回交流MTG)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BNUZオンラインキャンパスツアー</li> </ul>		
⑮12月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BNUZオンラインキャンパスツアービデオ鑑賞とコメント記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会前に事前に「配付資料」と「事後アンケート」を配布する(WordかPDF)</li> <li>・当日の交流時間のために質問リストを作成する</li> <li>・動画視聴中にチャットにコメントを売っても読んでもらえない可能性があるため、事前配付資料が必要</li> </ul>	
⑯12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告の内容</li> <li>・事前配布資料兼アンケートの内容</li> <li>・交流会までのスケジュール</li> <li>・交流会のタイムスケジュール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告では、趣旨や狙い、プログラムの流れ、当日の記録、反省、その他コメントを残す</li> <li>・事前配布資料では、趣旨、BNUZの紹介、感想シートを記す</li> </ul>	
⑰12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告書の分担</li> <li>・冬休み前の予告資料の作成</li> <li>・事前配布資料の作成</li> <li>・交流会のタイムスケジュールと担当決め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートには、①動画を見て興味を持ったポイントとその理由、②中国人の学生と英語で会話をした感想、③中国の学生生活について中国人学生から聞いた話を書いてもらう</li> <li>・事後アンケートの内容は、①交流会を通して学んだこと、②今後外国人と交流会することに対してどう思うか、③交流会参加前後で中国や中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートから得られた情報をジャーナルに載せても良いか1年生に許可を取る</li> </ul>

		<p>国人に対するイメージは変化したか</p> <p>④中国の学生への英語でのメッセージを書いてもらう。④は本人達へ送る</p>	
⑬1月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回交流 MTG で使用する英語スライドの準備</li> <li>・特別修学サポートルームでの相談会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国人学生とは参加する時間帯のスケジュールや注意点の共有を必ず行う</li> <li>・運営学生の得意分野や事前に把握している情報、参加可能な時間帯を元に役割分担を行い、時限別に担当者（責任者）を設ける</li> <li>・聴覚障がいを持つ学生に対する配慮すべき点を伺い、事前に Zoom で英語字幕（ライブ文字起こし機能）の使用手順を確認する</li> <li>・聴覚障がいを持つ学生が参加するルームは、特別修学サポートルームに赴いて実際に話を伺った学生が担当する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障がいをもつ学生に対する注意点を日本と中国の学生・教員同士で確実に共有する</li> </ul>
★1月10日（第5回交流 MTG）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国人学生との最終確認</li> </ul>		
⑭1月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本番の3、4限で使用するそれぞれのスライド作成</li> <li>・本番の運営学生・中国人学生・1年生の行程表の作成</li> <li>・事後アンケートの作成と配布準備</li> <li>・Zoom のミーティングルームの作動確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 限では英語と日本語のスライドを使用するが、進行をスムーズに行うため、それぞれ言語別にファイルを分けるのではなく、3 限で使用するページ分は1つのファイルにまとめる</li> <li>・本番時の混乱を避けるため、それぞれの行動を細かく時間に分けて記載した行程表を事前に手元に準備する</li> </ul>	
★1月13日（本番）			

## (2) 交流 MTG の概要

北京師範大学教育学部（珠海キャンパス）学生および教員との日中交流 MTG は 5 回に渡った。日本人学生側がホストとなり、中国語ソーシャルネットワークワーキングアプリである WeChat を用いてグループを作成し、交流会 MTG の日程調整や zoom 情報の共有などを行なった。以下、各回の交流会 MTG の内容を簡潔に示す。

### ◆ 第1回 5月18日（火）

参加者：日本側 学生3人 教員1人 中国側 学生8人 教員1人

第1回の交流会 MTG は、日本人学生と中国人学生がお互いを知り合うことを一番の目的とした。内容としては、お互いの自己紹介（25分）、ブレイクアウトルームに分かれて交流（10分×2）、両先生方からのお話（15分）であった。

反省点としては、zoom 操作が挙げられる。中国人学生は全員同じ部屋から zoom に参加していたため、ハウリングが起こってしまった。また、司会と画面共有者を別々にしていたため、説明箇所にあったスライドを提示するのが遅れることがあった。

#### ◆ 第2回 9月16日(木)

参加者:日本側 学生4人 教員1人 中国側 学生9人 教員1人

中国人学生向けに、1月13日の交流会についての説明をすることが主な目的であった。参加した中国人学生が前回と異なっていたため、前回同様、自己紹介とブレイクアウトルームに分かれて交流をし、その後にワークショップの説明をした。

前回の反省から、zoom 操作の割り振りをしっかりと組んでいたため、作業は順調であった。一方で、私たち日本人学生が1月に向けて何に取り組んでいて、彼らに何を手助けしてほしいか、という肝心な部分をうまく伝えられなかった。中国語を話せる学生に説明を頼ってしまい、他の日本人学生が、その学生と中国人学生との会話についていけない事態が起こった。

重要な部分は英語でも用意しておき、誰でも説明の補足ができる状態しておくなど、日本人学生同士の意思疎通もうまく取れるような準備と心構えが必要であると感じた。

#### ◆ 第3回 10月28日(木)

参加者:日本側 学生4人 教員1人 中国側 学生6人 教員1人

新潟での学生生活を知ってもらい、少しでも親しみを持ってもらうために、日本人学生が紹介動画とスライドを作成し、交流会 MTG で発表した。新潟大学五十嵐キャンパスを動画で紹介したのち、学生の1人暮らし生活(中国人学生は寮生活であるため、新鮮な話題であると考えた)や新潟ならではのイベントなど(長岡花火大会、ウインター

スポーツなど)をスライドで説明した。質疑応答では、中国の事情(花火が大気汚染に結びつくのではないか、など)を踏まえた意見を聞くことができた。その後、再度1月のワークショップについて説明をした。

終わりに、中国人学生にも、大学や学生生活紹介のスライドまたは動画を披露してほしいと伝えた。

#### ◆ 第4回 11月25日(木)

参加者:日本側 学生3人 教員1人 中国側 学生7人 教員1人

中国人学生が作成した動画を鑑賞した。巨大なキャンパスで学生が熱心に勉学や部活動に取り組む姿がうかがえた。また、広大なキャンパスゆえに、学生がモーターカーと呼ばれるバスに乗って移動していることや、学内にマクドナルドやスーパー、化粧品店などがあるなど、日本の大学とは全く異なる環境であることが分かった。1年生たちがどのような点に関心を持ちそうか。

#### ◆ 第5回 1月10日(月)

参加者:日本側 学生4人 教員1人 中国側 学生7人

13日の交流会に向けて、全員が心構えを持つことができるように、当日のタイムテーブルを中国人学生に説明した。zoom の字幕設定を使用するといった留意点なども伝え、最後に質疑応答の時間をとった。

### 3 当日の展開

#### (1) 概要

1月13日当日の授業では、zoom を用いて、オンライン形式で交流会を実施した。

以下、図1～図4は、その際に使用したスライドの一部である。

当日は、これらのスライドのスケジュールに沿って展開した。ブレイクアウトセッションでは、4つのルームに分かれ、中国人学生7人と日本人学

生 64 人、および運営学生が、英語による交流を行った。

## 日中交流会 20220113

皆さんに、新潟大学が**交流協定**を結んでいる**北京师范大学珠海校**の学生と英語で交流してもらい、お互いの国や学生生活の共通点/異なる点の発見や、国際交流の楽しさを得てもらうことを目指しています。

英語で自分の言いたいことが伝わると嬉しい！

お互いの学生生活を知る/伝える貴重なチャンス！

図 1 交流会の目的

## 日中交流会 20220113

2022年 1月13日 (木) 3限 @ZOOM

12:55~13:05 交流会の説明

13:05~13:10 中国人学生の自己紹介

13:10~13:25 中国人学生が作成した、大学生生活の紹介動画を視聴

13:25~13:49 international exchange① (4つのルームに分かれて交流)

13:51~14:15 international exchange ② (4つのルームに分かれて交流)

→交流会では運営学生は会話に基本的に参加しません。見守っています。

14:15~14:25 交流会の感想共有

→積極的に挙手をして意見を述べてください！

14:25~14:35 先生方からのお話

図 2 1年生用当日のスケジュール (日本語版)



図3 全体共有のスケジュール（英語版）

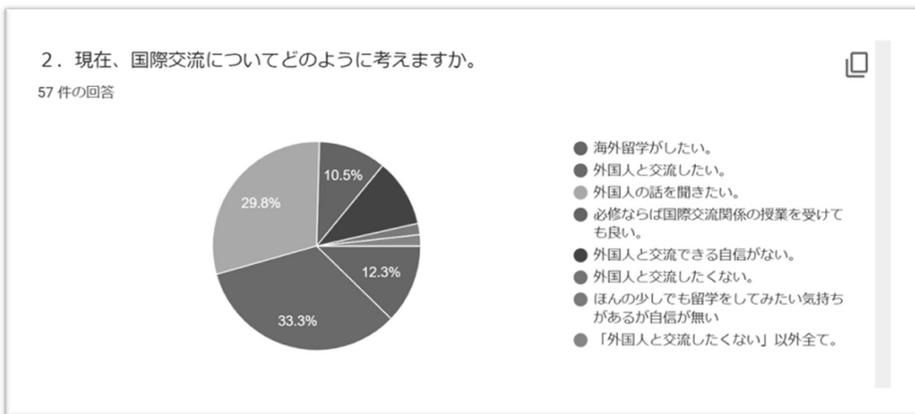


図4 「日中交流会」直後の国際交流への意識（創生学部1年生57人）

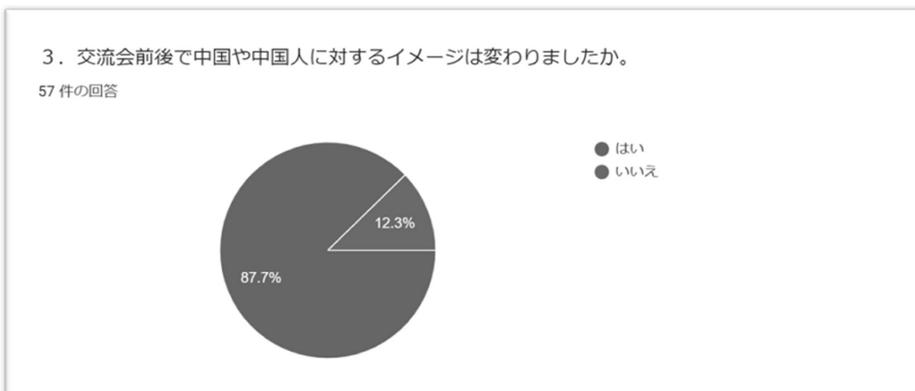


図5 「日中交流会」直後の中国や中国人に対するイメージの変化の有無（創生学部1年生57人）

## (2) 日本人学生の反応

次に、1年生への事後アンケートの選択回答結果（設問 2・3）から、交流会の感想を捉えてみる。

図 4 は、「現在、国際交流についてどう考えますか」という設問である。この回答からは、国際交流や、留学に対して前向きな姿勢であることがうかがえる。

また、巻末の「資料」として掲載した記述回答からは、多くの学生がブレイクアウトセッションでの交流について、「緊張して話しかけられなかった」「英語がうまく使えなかったという壁に当たった」という壁に当たったと述べつつも、「次はもっと積極的に話しかけたい」「語学をもっと勉強したい」という意識に繋がっていたことがうかがえる。

図 5 からは、「中国・中国人への印象が変わった」と答えた学生が多かった。記述回答からは、その印象が前向きなものに変わったとわかった。特に、「ニュースでは日中の国際関係があまり芳しくないこともあって中国人が悪者のように扱われることが多い印象があったが、実際一個人レベルで関わると同じ人間であり、そこに政治的な国境のようなものはないのだと改めて感じたから」のような声から、今回の交流会によって、1人の学生でもそのような変化があったのではないかと考える。

## (3) 運営学生による振り返り

4年 立川 みなみ

アンケート結果から、「自分の英語力の低さを痛感した」学生が多いように感じましたが、これをコンプレックスに思わず、意欲があればいくらかでも挑戦してほしいと思います。今年度の活動が、一年生の今後や来年度の活動につながれば嬉しく思います！私にとっても大変貴重な経験になりました。ありがとうございました！

3年 島田 凜々子

まず、授業の1回分を、学生4名が、設計段階からつくらせていただけたことは大変貴重な機会

であった。「1年生が中国人学生と交流会をする」ことは決まっていたが、どんな内容にするか、実施形態はどうするか、といった細かい事項は全て自分たちで考え、計画した。いつもは授業を受ける側であった自分たちが、中国人学生との交流会 MTG や 1年生への意識調査など、授業をつくる側としてすべきことを話し合い、実行していくことは新鮮であった。しかし同時に、メンバーとの意識のすり合わせやそれを外国の方に英語で伝えることの難しさも感じた。何度も壁に当たりながらも、回数をこなすことで、日本人学生間と中国人学生との間にも信頼関係ができれば、徐々に乗り越えていくことができた。

日本人学生とは8カ月、中国人学生たちとも長期に渡り活動し、何度も話し合いをしながら1月13日の交流会を作り上げ、当日を終えられたことは、私たち運営学生にとっても、非常に大きな力を得たことになると感じる。

今回の交流会を通して、1年生だけでなく協力してくれた中国人学生たちもが、自身の言語運用能力向上や、外国の方とのより多くの交流に向けて取り組んでもらえたら嬉しく思う。また、この交流会のためにご協力くださったすべての方に感謝します。

3年 長谷川 太一

私は留学を希望していたが、コロナウイルスの影響で叶わなかったため、オンラインで国際交流のできる本プログラムに参加した。英語中心のやりとりであったため、自身のコミュニケーションとしての英語能力の低さを痛感した。完全に思いを伝えられないもどかしさの中で、一つの授業を作り上げていくことは大変であったが、伝わるまでのプロセスを考えることができる貴重な体験であった。国際交流は文化や考え、全てに新鮮さがありコミュニケーションから学ぶことが数多くあった。この貴重な経験は短期的なものではなく、これからの自分にとって重要になってくる価値観

を形成してくれたと思う。半年間支えられてばかりだったが、自身の成長を強く感じ、参加してよかったと思えた。本プログラムに関わってくれた全ての人に感謝したい。

2年 堀川 優有里

私自身、元々国際交流系の活動への興味が強かったのだが、今回はオンラインで日本にいなから外国の方と交流できるということで、新たな国際交流の形態に魅力を感じ、本プログラムに参加した。

実際にプログラムに参加してみて、中国人学生とのやり取りを基本は英語、時に中国語や日本語を使用しながらなんとか本番までに授業を作り上げたということが、非常に面白い経験だったと感じた。また、中国人学生との交流はもちろん貴重な機会であったが、同時に尊敬できる先輩方・先生と約半年間共に活動し、自分にはない考え方や能力に触れることができたことも非常に刺激的だった。

本講義を通じて、外国人に限らずとも異なる価値観や文化を持つ人々と、どのようにコミュニケーションを取っていけば良いのか、学ぶことができた。この経験は自分の更なるスキルアップにつながる事ができたと感じる。今後の自分の大学生活でも、本プログラムでの経験を活かしていきたい。

#### <資料>

#### 日中交流会事後アンケート記述回答結果

(実施：堀川・立川・長谷川・島田)

#### Googleform 使用

2022年2月1日時点 60人回答

#### 1. 今回の交流会を通じて学んだことを教えてください。

- ▶ 国が異なると大学の特性も全く異なるもので

あるということがわかった。英語で話すことがいかに難しいかということがわかった。

- ▶ コミュニケーションの難しさ、英語でコミュニケーションをとるためには経験を積むことが重要だということ、日本と中国の文化の共通点や違い
- ▶ 交際交流で大事なことはとにかく会話を続けること。
- ▶ 中国の大学と日本の大学とのちがいが
- ▶ 自分が英語をうまく話すことが出来なくても積極的に話し、場を盛り上がるという姿勢。
- ▶ 中国の大学について知ることができた。英語でのコミュニケーションに必要なものと自分に足りていないものについて再認識できた。
- ▶ 英語でのコミュニケーションは難しいが楽しいということ
- ▶ 日本の先生からその国について習うよりも、現地の方と会話する方が、新たな発見や視点を得ることが多いと感じた。そのため、多少なりとも言語化の壁はあっても、生の声を聞くことは重要だと思った。英語で話すことは難しかったが、楽しかった気持ちが大きいので、今後、国際交流をする機会があれば積極的に参加したい。
- ▶ 英語を相手に上手く伝えるには、間違いたくないという恥を捨てて、積極的に自分の思いを伝えていくのが大切だと感じた。
- ▶ 自信がなくても英語で人と会話をすることの楽しさを久しぶりに感じる事ができました。また、私自身は中国に対してのイメージはニュースなどで得たものしかなかったので、実際にお話しする気ができてよかったです。
- ▶ 自分の英語の未熟さ
- ▶ 中国の大学は広大で日本のひとつに町ぐらいの規模で色々な場所が揃っているということ
- ▶ 英語を母語としない同士であっても、日本人と中国人では英語を話そうとする姿勢が違うなどと思った。中国人の方も、質問を英語で考

えようとすると言葉が出てこなくなるとおっしゃっていて、日本人と同じ感覚を持っていることが分かったが、日本人よりもどうにか言葉にしようとする姿勢が感じられた。

- ▶ 新しいことへの挑戦に対して自分がまだ内気であると痛感しました。質問は幾つか用意していましたが、前に出過ぎて周りに一線ひかれなかと怖くて結局質問出来ずじまいでした。今回のことで、自分には嫌われる勇氣、良い意味で周りを気にしすぎないことが必要かもしれないと学びました。
- ▶ 英語を用いることで、海外の人と関わることが改めて実感できた。
- ▶ コロナ禍において、国際交流は難しいと考えていましたが、オンラインだからこそ出来る交流の機会があることを知り参加できてよかったと感じた。国は違っても同じ学生であるため、もっと積極的にコミュニケーションが取れるようになりたいと思った。文化の違いを少しだが学べたため
- ▶ 今後もっと詳しく学びたいと感じた。
- ▶ 交流は言語能力よりも積極性が求められると思った。
- ▶ 私は中国人学生と英語で交流することができなかつた。しかし、講義を受ける前は中国人との交流と聞いていたため、とてもハードルが高いように思えたが、英語での交流で英語の授業をやっている感覚であったため、国際交流に対する少しハードルが下がったような気がした
- ▶ 挑戦することの大切さ
- ▶ コミュニケーションには語学力のみならず、笑顔やわかりやすい身振り手振り、相手の話始めを優しく待つ壁を作らない態度が重要だと分かった。また、中国学生生活と日本のそれについてモーターカーが必要なほど敷地が広いこと、食堂やスポーツクラブがリゾート地のようにであったこと、学生が全員寮で生活

することなどの違いと、4年制であることや図書館で課題に取り組むことなどの共通点を学んだ。

- ▶ 中国人の学生と交流してみて、流暢な英語に驚いたと共に日本の英語教育との違いなどについても気付かされる部分がありました。高校の頃に台湾の学生と交流をしたことがあるのですが、その時と同様国際交流は実際にやってみると楽しいものであると改めて実感した。
- ▶ 海外の方とコミュニケーションを取るとは自分が思っているよりもむずかしくない
- ▶ 中国の大学は様々なことが充実していること。特にサービス面。
- ▶ 中国の大学が日本よりも充実していること。教育に力を入れている。また、実際に中国人とお・互いの母国語ではない英語で話したことで、コミュニケーションの積極性が日本人は足りないと感じた。
- ▶ この大学以外は分からないけど、日本の大学に比べてとても広く、充実していると思った。流暢に英語を話しているなと感じたものの、中国人学生の方も話す機会というのは少ないと話していて、英語で話すときはナーバスになるということも話していて、私たちと同じようなことを思うのだと印象に残りました。
- ▶ 自分が伝えたいことを英語にすることの難しさを痛感し、英語の実践力不足を感じた。また、中国人の方々は自発的に発言しようという意思が現れており、自分もそのように積極的に質問できるように心がけたいと感じた。
- ▶ 中国の大学がすごく広いこと
- ▶ 国際交流はオンラインでも十分可能であるということ
- ▶ 自分の母国語じゃない言語でコミュニケーションをすることの難しさを改めて感じ、英語苦手なりにもなんとか話そうと努力する大切さを学んだ。

- ▶ 英会話の中で、自分が正しいと思う文法で話しても、違う国の人には通じづらい単語や使い方があったと感じた。1回伝わらなくても、相手も聞き取ろうと努力してくれているのでめげずに違う伝え方を試みたりすることが大事ではないかと感じた。日本では毎日寿司を食べるか、という質問もあり、やはり他国には本当の情報が伝わりづらいことも感じた。私も色々な国に対して思い込みがあるんだろうなと気づけたので、色々な国に対して積極的に情報を得るようにしたい。
- ▶ 中国人は日本語が上手でした。
- ▶ 1回で伝わらなくても、表現を少しずつ変えて試行錯誤することでなんとか伝わるようになること
- ▶ 自分のコミュニケーション力の低さを痛感したが、話せないなりに会話をしようとするのが自分の学びを広げるために必要であること。
- ▶ 英語で自分の考えを話すことの難しさを感じた。今まで英語の学習をしてきてはいるが、やはり話すのと書くのとではまったく異なっているのを強く感じた。もっと上手く話せるようになったらさらに交流を楽しめるのではと思った。
- ▶ 外国の方とコミュニケーションを取るのに、完璧な文法は必要ないのだということを知った。単語を繋げた言葉でも、相手に文章を伝えたいという意味が、コミュニケーションの基礎となるのだと思った。また、言葉だけではなく表情やジェスチャーなども、会話をする上で重要な意思表示であるのだと再認識した。
- ▶ 英語を全然うまく話すことができなくても、伝えようという思いがあればそれなりに意思疎通ができることを学んだ。
- ▶ リモートで英語でのコミュニケーションの難しさ、中国の大学生活の様子
- ▶ 中国の大学は日本の大学に比べて敷地が非常に広くて、体育館などの施設も大きかった。さらに、お店などが充実していて少し羨ましいと感じた。日本語を喋ってくれたり、動画に日本の要素を取り入れてくれたりして配慮してくれていた。中国人学生は英語が流暢で私たちと意思疎通してくれようという意思が強く伝わってきた。言語が違っても分からなくても伝えようという気持ちが重要だと感じた。
- ▶ 中国の大学と日本の大学の違いを学びました。中国の学生と英語で交流して英語でのコミュニケーションの難しさを感じ、英語の学習を頑張ろうと思いました。
- ▶ 自分の英語力の未熟さ
- ▶ コミュニケーションの難しさ
- ▶ コミュニケーションの難しさ。言語の壁があると感じた
- ▶ 中国の大学の規模の大きさを知ることができた。交流ではなかなか話し出す勇気が出なかったが中国の学生のお話はとても興味深かった。
- ▶ 英語は世界中の人とのコミュニケーションを可能にする万能な言語である。
- ▶ 英語で話したり答えたりすることが難しいのも勿論ですが、日本語で質問を考える能力ももっと培わないといけないと思いました。
- ▶ 自分の考えを別の言語で伝えることの難しさを痛感しました。
- ▶ 大学の中に娯楽施設があるなど、中国と日本で様々な違いがあることを学んだ。また、英語が未熟であったとしてもジェスチャーとか単語とかで通じ合わせることも学んだ。今後としては、英語の学習をしてコミュニケーションをとれるくらいにしたい。その他にも、将来自分がこのような交流会を行うときの会話の転がし方も自分に足りないものだと学びました。

- ▶ 中国の大学の様子や、中国の気候について知ることができた。ただ、やはりもう少し中国の方とフレンドリーに積極的に交流できたらよかったかなと思う。今度また同じ状況になったら、もっと事前にききたい内容をまとめておいて、ちゃんと話せるようにしたいと思った。また、自分の話した英語があまり相手に伝わっていなかった場面がしばしばあったので、もう少し流暢に話せるようにしたいと思った。
  - ▶ 今回の交流会を通じて、海外の人との交流は恐れるものではないということを学んだ。高校時代も台湾の姉妹校との交流や研修旅行で現地の大学生との交流も経験したが、オンラインでの交流はこれがはじめてで、正直あまりうまく交流できなかった。英語力に加えてオンラインで人と関わる力のようなものも必要なのかもしれないと感じた。
  - ▶ はっきり英語を話すことが大切だと思った。自信がなくて何となく話すのではなく、自信を持って間違ってもはっきり話すことが大切だとわかった。
  - ▶ 英語に不安があったけれどちゃんと聞き取れた。中国の学生さんは英語でも語り口が話し言葉になっていて親しみやすかった。もっと英語で話して伝わる文章を作れるようになりたいと思った。申し訳なかったり悔しい部分もありましたが、国際交流が意外と簡単で、お話しすることなんだと思えたのがよかったです。
  - ▶ 中国人学生の英語がとても流暢で文化の違いを感じた。
  - ▶ 英語の語彙力がなくても、身振り手振りやリアクションで意思疎通がある程度できること。私たちには、積極性や殻を破る勇気が足りないこと。
  - ▶ 文法が苦手でも、語彙力があれば単語を繋げて会話することができること。会話するには、外国文化についての予備知識がなければ会話が弾まないこと。
  - ▶ 自分にとって英語での会話は勇気がいるということ
  - ▶ 国際交流に関して、以前よりもハードルが下がったように感じた。
  - ▶ 割と今までは海外の人と交流する事は抵抗があったけど今回の交流で少し自分の中でハードルが下がったように感じた。
  - ▶ 中国の学生の方は私が話す拙い英語にも真剣に耳を傾けてくださってとても優しいと感じました。
  - ▶ 英語によるコミュニケーションは予想よりも難しいことや、日本と中国の大学とでは、大学の規模が異なるということがわかった。
- 4. 3. (「交流会前後で中国と中国人へのイメージが変わりましたか」)で、その選択肢を選んだのか、理由を教えてください。**
- ▶ 中国にいいイメージがあまりなかったのは、メディアに自分が踊らされていたのではないかと改めて認識することができ、自分に外国のことを理解しようという気持ちがなかったことに気づくことができたから。自分がニュースを見て知った気になっているだけであったことを反省したいと考えたから。
  - ▶ 中国や中国人に対してあまりイメージがついていなかったが、今回の交流会で話した学生さんがみんな優しく、コミュニケーションに対して積極的になってくれて嬉しかった。
  - ▶ かなり優しい方で気さく
  - ▶ 英語力が高いから
  - ▶ 初めてお話ししてみて、とても明るくて気さくな方ばかりだったと感じたから。
  - ▶ 中国の大学生がどのような人か分からなかったが少しでも理解することができたから
  - ▶ 日本語がとても上手だったり、親切だったり

したから。

- ▶ 海外で生活することに不安を覚えていたが、中国の大学については、構内でバスが走っているくらい敷地が大きく、設備も豊富なので充実していると思ったから。中国人に対するイメージについては、動画で大学の隅々まで紹介し、編集も丁寧だったのに加え、会話をする際にも礼儀正しさが感じられた。このようなことから、自分が思っていたよりも、相手を敬う気持ちが大きいということが分かったから。
- ▶ 中国については今までニュースなどでしか知る機会がなく、あまりいいイメージが無かったけど、実際に学生の方々と話すとも明るく賢い方々でとてもいいイメージを抱きました。自分が思っていたよりも優しい方が多くて、中国や日本についてどのように考えているのかをたくさん共有して下さって嬉しかったです。
- ▶ 凄くフレンドリーで接しやすかったから
- ▶ 日本人と同じような感覚であったが、とても英語が流暢だったから
- ▶ 日本のアニメやマンガが世界的に有名であるとは知っていたけれど、それは一部の人たちの間だけだと思っていたが、今回交流した方たちは、みんな好きなアニメやマンガがあって、日本に興味を持ってくださっている方が想像よりも多かったから。
- ▶ 交流を通して「個人」に触れられたから。
- ▶ 日本と海外という壁を作っていたが、実際には似ているところも多く、中国と日本は全く異なる存在という固定概念が変わったいいきっかけになった。
- ▶ もっと大きく違いがあると思っていたが、同じ大学生であり、自分の学びたいことを深く学んでいこうという姿勢をもっていると感じたため。
- ▶ 報道では見られない中国の人々の姿が見られて嬉しかったから。
- ▶ 最近のニュースで中国の文化的統制などが報道されていたため、中国は少し特殊な国という偏見が心のどこかにあった。しかし、実際に交流してみると住んでる場所が違うだけの同世代の学生であり、同じ人間なんだということ思い出すことができたため。
- ▶ 日本に対して良いイメージを持ってきていたから。
- ▶ 中国の人は日本人より英語に慣れているイメージがあったため、英語をほとんど聞き取れなかったらと不安があったが、実際に交流した学生はこちらが聞き取りやすいようゆっくり話し、話に詰まったときもゆっくり待ってくれたため、英語が苦手な人に合わせてくれる親身なイメージが生まれたから。
- ▶ 交流の際に、頷いて返してくれたりジェスチャーなどをしてくれたりして、安心したし、英語に対して苦手意識があるという会話に親近感を抱いたから。中国の学校の施設の規模や、綺麗さなどから、日本の私立よりもレベルが高いと感じた。
- ▶ 中国人の方と交流してみて、自分の知らなかったことが色々分かったから。よくニュースなどで見る中国は技術はすごいが使い方があまり良いものじゃないとか、政治のこととか悪いイメージを持ちがちだった。しかし、今回学生生活というテーマで中国のことを知ってみると、今まで自分が抱いていたのは一面的なイメージでしかなかったんだなと思ったので。今回の交流会のような私たちに身近なテーマで、気軽に外国のことを知る機会は少ないので、すごくありがたいと感じた。
- ▶ 中国人へのイメージがガラリと変わったから。また、言いたい内容が伝わった時がとても嬉しかったから。
- ▶ そこまで偏見のあるイメージを持っていなかったから。

- ▶ 中国に少し怖いイメージを持っていたが、実際に交流してみると私たちと同じ学生なんだと実感することが出来たため。
- ▶ すごくフレンドリーだった
- ▶ 気さくな方々ばかりだったから
- ▶ 先輩方とコミュニケーションをとっているときの雰囲気がとてもフレンドリーだったことと、非常に英語が堪能だったこと。
- ▶ 海外の文化やアニメなどのエンターテインメントが、どこまで知られているのだろうと思っていたが、想像以上に日本文化を知っていたり、かなり最近のものにも興味を持っていることがわかったから。
- ▶ ぶっちゃけ中国については悪い印象があった。しかし中国人と交流してみてもいい人たちが良い印象に変わった。
- ▶ 中国にも弓道部があり、親近感が湧き距離が近く感じたから
- ▶ 高校の時交流した中国の学生さんのようにフレンドリーで優しく、英語や日本語が上手な方ばかりだったから。
- ▶ そもそも中国の大学について考えることやイメージを持つことが無かったが、広大な敷地に施設が充実していることや全寮制であることなど、初めて知ることが多かったから
- ▶ 中国の大学生は生活面、学修面においてレベルが高いだろうと予想はしていたが、その予想を上回るレベルの高さだった。動画の中やわずかな時間の交流の中でしか北京師範大学での学生生活について知ることはできなかったが、それでも熱心に学修に取り組む学生の姿などが伝わってきた。キャンパス自体が一つの街のようで、日本の学生生活とは異なるところがたくさんあると感じた。
- ▶ とてもフレンドリーだったから
- ▶ 今まで中国人に対しては考えたことがなかったが、今回の交流会で中国人学生がどのようなことに興味があり何を学んでいるのかを知り、日本について興味を持ってきているのがわかってうれしかった。
- ▶ 日本のアニメや漫画を知っていたり、武道をやっていたりと近い部分が多いと感じた。中国の学生も私たちと同じような学生生活を送っているのだと思った。授業の前は中国の人はなんとなく怖いというイメージを持っていたが、全くそんなことなかったから。
- ▶ ニュースだけ見ると悪いイメージを持っていますが、実際に交流してみるとあたたい対応をしていただいととても心が温まりました。
- ▶ 中国人や日本人という括りでは自分のアイデンティティは揺らいでしまうと思う。自分は自分であり、相手も相手である。そう思えた。
- ▶ みんなフレンドリーに話してくれたから。
- ▶ 交流の中で、中国の学生が話すのに緊張していたり、日本での思い出の写真を楽しそうに見せてくれたりしているのを見て、今まで海外の人というものがあまり想像できなかった少し怖いイメージがあったが、住む場所や環境、育ちは違えど同じ人間なんだと感じたから。イメージ通りだったから
- ▶ 中国が経済発展をした理由として日本の支援を挙げていたことに驚いた。日本の自殺問題を研究対象としている人がいて、他国の社会問題にまで関心が及ぶのはとても意識のレベルが高いと思った。
- ▶ 中国人の方は頭が良いイメージがあり、お堅い雰囲気を想像していたのですが、優しい方が多く、驚きました。
- ▶ 中国の方と今まで交流したことが無くどのような方か知らなかったため、あまりいい印象を持っていなかったのですが、会話を振ってくださったり、聞き取りやすいようにゆっくりしゃべってくださったりと私たちのことを考えてくださって、ありがたいと感じたからです。

- ▶ そここまで中国人のイメージと違うと思わなかったから。日本人と違う中国人であるとはいえ、根本はやはり同じ人間だなと感じた。
- ▶ ニュースでは日中の国際関係があまり芳しくないこともあって中国人が悪者のように扱われることが多い印象があったが、実際一個人レベルで関わると同じ人間であり、そこに政治的な国境のようなものはないのだなと改めて感じたから。
- ▶ 意外と気さくに話してくださったから。
- ▶ 過去中国に一年住んでいたという経験があり、その頃から日本人のイメージよりも現地の方はもっと親切で親しみやすくて、(バスの席を子供によく譲ってくださったりとか) いい意味で印象は全然変わっていません!
- ▶ 中国の学生さんと会話ができているところから、ちゃんと人が生きてて学生生活を送っているということが伝わって、中国のイメージや抵抗感が薄くなった。
- ▶ とてもフレンドリーで私たちの拙い英語を理解しようとしてくれていて優しいと感じた。
- ▶ 今まで特に悪いイメージもなく、日本人と似たようなところをもっているだろうと考えていた通りだったから。
- ▶ 優しくて聡明な方ばかりだったから
- ▶ 主に大学に関する内容で日中交流をしたから
- ▶ 勉強熱心な方が多く、自分が思っていたよりもフレンドリーな方が多かったから
- ▶ 日本の文化についてとても詳しくかったり、日本語がとても流暢だったりしたところから日本が好きなんだろうなっていうのが伝わってきたから。
- ▶ もともと中国の方と話したことがあり、以前もとても良い人で積極的だったので中国人の方はとてもいい印象があったため。
- ▶ ニュースでは対日関係の悪さが取り上げられがちだが、日本との交流を楽しみにしてくれら人もいるということを実感できたから。

## 5 中国の学生たちへのメッセージ

- ▶ Thank you very much for this very valuable opportunity. Through this exchange event, I would like to study English more and try my best to learn more about various countries.
- ▶ Thank you for today's class. It's difficult for me to talk with Chinese students in English. However, I could learn about differences and commonalities between Chinese and Japanese. Today's class is precious experience for me.
- ▶ Have a nice future!
- ▶ thank you very much!! It was fun to speak with you.
- ▶ Thank you for talking with us today. I was so nervous but you are very kind. I'm not good at speak English but I notice it is important to speak active. Today was precious memory.
- ▶ I am glad to know about you and China
- ▶ Thank you! I would like to go to China.
- ▶ I could learn about Chinese university and culture, so I think this event was beneficial for me. And then, I was surprised at fluency of your English, so I become to think that I want to learn English more. Thank you for giving enjoyable time and changing my conception.
- ▶ Today's class is very fun. Thank you very much. Speaking English was very difficult, but I'm enjoyed.
- ▶ thank you for sharing your idea and communicating with us!
- ▶ I was surprised that Chinese students were very good at English. I think that I have to study English more.
- ▶ Thank you for providing such a place. I wasn't thinking of studying abroad and I was wondering if I wouldn't have much international exchange, but

listening to various stories made me more interested in things outside of Japan. I'm going to study Chinese.

- ▶ Thank you for talking with us!! I'm so happy because I realized that you are interested in Japan. I want to go to school in China.
- ▶ I want to take more time to communicate with you!
- ▶ I don't speak English because it is different for me to use English. But, this time become very important experiences for me to communicate with you. Thank you for talking with us.
- ▶ Thank you for talking about university's life. I wanted to take communication with you by face to face. Also I thought that I must study English everyday. Thank you very much. This was my first time to know about Chinese university. I am surprised that many Chinese like Japanese anime. I'm interested in Chinese anime. Thank you very much!!
- ▶ 私は中国について聞きたいことが沢山あったのですが、緊張して喋ることが出来ませんでした。それでも、中国のことを中国人の方から聞けるととてもいい機会だったと思います。聞いてるだけでしたが、とても楽しかったです。また何か機会があれば、次こそはちゃんとお話をしたいです。
- ▶ Thank you for good meeting! I hope you can good study today and keep going.
- ▶ First, I want to thank you for 20220113's exchange meeting. I was able to learn how does Chinese students spend their daily lives in Beijing Normal University, Zhuhai. I was surprised that Chinese female university students drink boba tea almost every day. Not only I learned about Chinese students' daily lives, but also, I was inspired about my communication skills by the exchange meeting too. Last but not least, your video was so wonderful. I heard that you had prepared for the exchange meeting from a long time ago. Thank you again about

your polite preparation and kindness.

- ▶ I was able to know about Chinese University. And I was really surprised at the English of Chinese students. Thank you.
- ▶ Thank you for making a wonderful video and explain about China!
- ▶ Thank you very much for an enjoyable event today. I was very happy to hear about your student life. Let's both do our best in our student lives!
- ▶ Thank you for a good time. I was able to study a lot. I have great respect for your willingness to interact. I also wanted to study about China.
- ▶ 今回はこのような機会を作ってもらってありがとうございました。このような機会をもらったのに、勇気が出なくて話すことはできなかったです。でも、私が知らなかった中国の学生の方々の生活や中国の大学について知ることができたのはとても良かったし、興味のある話を聞けてとても良い経験になりました。今回は本当にありがとうございました。
- ▶ Through this opportunity, I became interested in China. If I have another chance, I would like to be able to speak English more. Thank you very much for this time.
- ▶ I'm glad to talk with Chinese students. Thank you!!
- ▶ I was able to spend a very meaningful time thanks to hearing from the students about my student life in China. thank you!
- ▶ Thank you for today's meet and greet. I was very glad to meet you online. I'll study English more hard and I want to be good English speaker like you ! Thank you so much !
- ▶ A Chinese student said that English is difficult when he thinks about his questions. I think so too. So I felt a sense of closeness. I had a wonderful time. Good luck to all of us. Thank you.
- ▶ Thank you

- ▶ I'm glad that your university accepts Japanese traditions such as Kyudo. I want to know about Chinese university, culture, relationship between Japan and so on. And someday, I want to visit your university.
- ▶ Thank you. It was really interesting time, I'm glad to talk with you.
- ▶ Today's lecture was a very valuable opportunity for me. Communication in English was difficult, but it was a meaningful time to learn about Chinese universities. thank you. Because I'm not used to speaking English, I couldn't communicate well. I'm sorry about it. But today's experience was so exciting for me. I was inspired, and I could think that I have to make effort on my life. I would like to express my deepest appreciation. I want to you meet you again, and enjoy communication.
- ▶ I enjoyed interacting with you very much. Thank you.
- ▶ I was nervous and I am sorry I did not communicate well. I was glad to know about Chinese school life from your video. Thank you!!
- ▶ I'm glad to know about the life of Chinese students. I think it's important to interact with another country students. Thank you!
- ▶ Thank you for having a relationship with us. It was a good experience and I want to visit your university.
- ▶ Thank you this exchange meeting. It's a pity that I couldn't answer well in English when I was nominated. I was warmed by your warm response. I become more interested in China. I hope I can study English more and speak fluently with you.
- ▶ There were so many members in the group that it was hard to talk, but I wanted to talk about more things! Thank you!
- ▶ Thank you for cultural exchange. I want to travel China.
- ▶ The video what you made was so beautiful and interesting!!
- ▶ It was wonderful time and was a good experience for me. Thanks very much!!
- ▶ I couldn't speak English fluently, but I feel glad because Mr. Sai said that it was nice try. I feel really happy because meet you. Thank you.
- ▶ Thank you for interesting class!
- ▶ Thank you for regarding communication as us. In addition, I try so hard that I can speak English fluently if there is the next opportunity. This exchange meeting, thank you very much.
- ▶ Thank you for talking with us!! It was great time to learn about China. Next time, I want to talk more with you. If covid19 was over, I want to meet to you directly!!!
- ▶ Thank you for special event for us! I wanna talking about campus life more.
- ▶ 今日は私たちと話してくれてありがとうございました。楽しかったです！
- ▶ Thank you for your video and interaction!! Actually I have been to China for a year. When I saw wonderful video you made, I remind myself to memories in China and this video makes me feel good! I think Chinese has kindness. This video shows us it too! I think it was very excited and I motivated to learn English. Your friendly talk made me relief. Thank-you for your special effort to preparation for this chance.
- ▶ Thank you very much for trying so hard to understand our poor English. The video made me interested in the university and I would like to visit there. Thank you very much for your time.
- ▶ Thank you for this class. I come to want to communicate with foreign people more. I was surprised that you were fluent in English and Japanese! I want to be able to study and speak too!
- ▶ It was an interesting international exchange. I want

to go to your university if I have a chance.

- ▶ Thank you for participating this class. I want to talk a lot of things. If I have another chance, I want to go to China.
- ▶ うまく自分の言いたいことを伝えられない部分もあったけど、言いたいことを汲み取ってくれて、コミュニケーションが成立した気がして嬉しかったです。
- ▶ Thank you for today's discussion. I'm not good at speaking English. But you earnestly hear my English. I was very happy.
- ▶ Thank you very much ! I could enjoy your talk.

謝辞：

今回の「日中交流会」の企画・準備・実施にわたり、北京師範大学珠海校の皆様にはご協力・ご参加いただき、ありがとうございました。この国際交流活動は、皆様のご助力なしには、実現できませんでした。心よりお礼を申し上げます。

北京師範大学珠海校 教育学院

教授 胡 学亮先生

学生 蔡 震洋さん

陈 宇恒さん

梁 文卓さん

舒 萌さん

张 宇欣さん

汪 玲さん

他の参加学生さん

また交流会の円滑な準備・運営のため、次の皆様にお世話になりました。サポートをいただき、ありがとうございました。

特別修学サポートルーム

特任教授 能登 宏先生

ノートテイカーの皆さん

授業「国際交流リテラシー」共同担当

教授 佐藤 靖 先生

助教 小山 翔子 先生